「あなたは、わたしに・・・」

ヨハネによる福音書 二十一章二十~二十五節

習の仕方を理解して、 月・六月と二回にわたり、順不同でよく知られた箇所を取り上げさせていただきました。 えたわけで、 この四月から「ヨハネによる福音書」を御一緒に学び始めて、 いよいよ初めの一章から順を追ってスタートというところかと思います。 それに馴染んでいただくためです。そのようにして、三回目の今月・八月を迎 四カ月が経ちました。これまで、

後に初めから順を追って見ていくとき、福音書全体のトーンをよりさやかに感じ取れるようにも思 7 り立ちがそのようであったことから、ここでは追加部分の二十一章を先に読み通し、 そもはここで閉じられていた福音書に、 後の二節(三十、三十一節)を御覧くだされば、そのことはすぐにもお分かりいただけるかと思いま による福音書」は元来、二十章で終わっていたと考えるのが定説になっているためです。二十章の最 八年の二月からになるでしょうか。 いうことです。 われます。 初めの一章から順に学びをさせていたただきたいと考えています。予定としては、 そこには文字どおり、福音書を締め括る「あとがき」の言葉が記されています。つまり、そも 御理解いただけば幸いです。 いま一度、 そこには当然ながら、そうする理由があったにちがいありません。 前置きの学びを差し挟むことをお許し願えればと思います。それは、 少々スローに過ぎる感がなくもありませんが、 後年、 最終の編集者が補遺のような形で二十一章を加えたと ただし、元々の成 補遺を済ませて その後で改め 来年・二〇一 「ヨハネ

とも少なくありません。 時に見過ごすことのある出来事の流れの連続性とそこに置かれたメッセージの核心に気づかされるこ にして進めさせていただければと思います。これもまた、 いを頂ければと思います。 ちなみに、 そうすることで、 二十一章の学びも、三回に分けて、かつ ですので、 前後の文脈の全体に目をやることが容易になることがあります。 多少 途惑いを憶えられるかもしれませんが、 いわば逆引き的に終わりから初めに戻るよう 普通の仕方とは異なるかもしれません。 最後までおつき合 け

それぞれに特徴があり持ち味があって、たくさんのメッセージを伝えてくれています。 ち)に感謝する思いで満たされます。 福音書の全体を思い見るとき、私は今さらのように、 ということで、 前置きはそのくらいにして早速 今月の学びに入りたいと思うのですが、 (マタイ、 マルコ、 福音書をまとめて それを残してくれた人(た ルカの) ほかの三つの福音書ももちろん、 ただ、 ヨハネの

じてきました。 点が違っていて、それがこの私には ような福音書は生まれなかった。 ですから、 それを書い 「この弟子」と言われているその人物に、 今月の二十四節を見ますと、 はそれらと少しばかり たのは、 ٠ ئ この弟子がいたおかげで、 の弟子である」。 とても深くて大切なメッセージを語り聴かせてくれるように感 (色合いというか、 こう書いてあります。 ということは、 私はそれこそ 目のつけどころというか) ヨハネの福音書は生まれたことになりま っこれ この弟子が 深い感謝の思いを抱い 50 ことに いなかっ ものを見る視 つ 7 その て

いつも、 閉じられてもいます。 ない 先生に聞 を痛めながら、 ることと思います。 イエス 子がそれであって、 の弟子がイエス様に尋ねたというしだいです。「最後の晩餐」という決定的な時にその場にい 弟子たちのリ 不思議なことに気づかされます。それは、 な人物だったことが想像されます。 れだけでもありません。 (十字架を前にした「最後の晩餐」のときです。 それは具体的には イエス様のすぐ傍らで、 「イエス エスの愛しておられた弟子」 ・キリストの十二弟子のうちの一人の「ヨハネ」のことを意味していると、 そう考えて、 リーダー格のペトロと一緒のところで登場するのです l 普通の弟子ではない。十二弟子の一人であって、どこか特別な弟子にちが てみろよ」。 先ほどの二十節の続きを見ると、 『主よ、 イエス様がそうおっしゃられた。 の愛しておられた弟子」(二十)だと言います。 この弟子がこれらのことを書いたと、そう言うわけです。 最後の晩餐の席で「自分を裏切る者がここにいる」と、 二十一・二十~二十三)。 格のペトロが、 誰 十二弟子の一人のヨハネということが出てくるのですが、 なんとも不思議なことではないでしょうか。 この「イエスの愛しておられた弟子」 裏切るのはだれですか』と(そう)言った人である」。覚えておられ のことかを言っているのかというと、 それに応えて、 その胸元に寄りかかったまま そんなことを尋ねる。 けれども、 イエス・キリストのすぐ隣りにいて に合図をして、 「主よ、 ヨハネによる福音書には十二弟子のうちのほかの弟子たち ということは その名前が最後まで明らかにされないまま、 こうあります。 そのとき、イエス様から離れた席にいたのでしょう。 こう尋ねさせます。 裏切るというのは誰のことです そのとき)、 やはり、 というのは、 (十三・二十一~三十、 「この弟子は、 初めのところに書かれ しかも、 イエスの愛しておられたその弟 弟子たちの中でもどこか イエスの胸もとに寄り 「裏切るっ その胸元に寄りかかって これと同時に、 ヨハネの福音書の中では そして、これは普通 実際問題、 ユダの裏切りに心 あ そう考えられ の夕 「これは弟子 て誰のことか、 ています。 か」と、 食の もう一つ つ

伏せた。 れこれ うだとしたら、 うわけです。 人のヨ せな弟子だったのではないでしょうか。 におれなかったのではないか、ということです。どれもが推測の域を出ないものの、 られた弟子」と そのように呼んでもいます。それはおそらくは、こういうことではないか。 にも見当たらないことです。 ヨハネは自分の名前を伏せながらも、 の名前はそれなりに書かれていて そこに出てくるのに、よりによって ハネが中心になって、 自分の名前は表に出さないようにして、 ただし、 普通、 それはこの私にとって本当に感謝な弟子であり、 次のように考えられています。 一方でそうしながら、その一方でまた、その自分のことを「イエスの愛してお これをまとめる作業が始められた。 ヨハネの名前だけが隠されていて、 自分がイエス様に愛されていたことだけは感謝の思いで書かず そんな 羨 ましい思いにもさせられてい そのようにして福音書をまとめ始めたのでは、 「ヨハネによる福音書」 当の本人にとってもまた、 だからこそ、 表に出ていません。 当のヨハネの名前だけがどこ は、 ヨハネは自分 います。 まずは十二弟子の一 というようなあ しかし の名前を つまり、 とい

弟子• とです。 され、その後、 とも分かりにくいところですが、 いうの 音書を書いたと思いきや、 なことを知っ のように言われていることです。たった今申し上げたように、 たヨハネの、 二十四節の後半で突然、次のように言われていることです。「わたしたちは、 ところが、 ですから、 その後、 3 つまり、 面倒な問題に紙幅を取られたくありませんので 要点と結論だけを御紹介しますが、 ですから、 当のヨ ハネである。 さらにもう一つの「ところが」というのがあって、 ということです。そのヨハネの)証しが真実であることを知っ ている」 \exists ハネではない別人が文章を書いていることが分かります。 「ヨハネによる福音書」は十二弟子の一人のヨハネを中心にして編纂の作業が開始 あまり年を経ないで、二十一章が同じように 教会によって加えられた、 一人でなくて複数の人たちです。 ハネのその教会によって 二十章までがいちおう「福音書」としてまとめられ 「全体としてこの福音書を書いたのは、 ٤ そして、 「この私たちは ここでそう記されているのではないでしょうか。 結論だけを申し上げれば、 私たち・その教会の者たちは、 そのヨハネの言葉が真実なことを知って いったい、 次のようなことではないかと考えられて どういうことになっているのか。 イエス様に愛された弟子のヨハネが福 私たちの頭をまたまた混乱させてく イエスの愛しておら そのヨ しかも、 彼の ハネの言葉が真実 (今申し上げ ている」。 れたこの というこ いる」と、 それは、

いたと、 がペト 今月の 口にこう言っておられます。「わたしの来るときまで 般的にはそう考えられています。どういうことかというと、二十二節で、 「最後の二十一章」 が書き加えられたとき、 そのとき (すなわち、 ヨハネはすでに天に召され イ イエス・キリス エス様が天に

子の 戻っ で、 る間に、 そのことがはっきりと書かれています。 まり信頼できないってことか?」などと、 た弟子の ます。要するに、 ネがなんと召されてしまうわけで、 エス様がそうおっしゃられた。「それで」、二十三節の「うわさ」になります。 た来られ 章が書き足された、 間に そうした そんなことを言おうとされたのではないんだ」と、そのように て 後、 ち 3 エス様が言われ ハネ イエス様は来られるはずじゃなかったのか。 (すなわち、 3 ですから、 は もう一度やっ ハネがまだ)生きていることを、 死ななな を正すためにも今月の箇所がここに補われた、 その後で(ヨハネが召されて少し年月が経ったその後で)今月の部分を含む二十 3 ここでは、 ということのようです。 たの 諸教会の ハネ先生は生きてるはずじゃぁなかったのか。 いという は てくるその時まで)、 『仮にそう願ったとしても』という ヨハネがすでに召されていることが前提になっているように思われ 間に)広まってしまった」というのです。 (イエス様の真意とは違った、 そうなると、 「イエスは、 いろんな 呟 きが聞こえるようになってきます。 いろんなことが言われ始めます。「イエス様 この自分が望んだとしても 彼が 彼は死なないと言わ (つまり、 イエ ということです。 ス様の言葉もやっぱり、 誤解の) 1 『たとえば エス様の愛しておら 「但し書き」 ヨハネ先生がおられ れた うわさが兄弟た ところが、 「それで、 二十三節を見ると の の話』 で が加えられ は そのヨ であっ がま n

語っているその言葉の裏には、 でも呼べるようなそのような「厳かなもの」 証しというの したちは、 によっているということにほかなりません。 繰り返されているように、 彼の それにも増して何より重要なのは、 は 「証言」ということですから、 証しが真実であることを知っている」と ヨハネの教会の人たちが二十四節 そのような厳かな思いが込められているように思えてなりません 弟子のヨハネのその がそこに生まれてくるのではないでしょうか。 それは 自分が実際に見たり聞いたりしたそれらの この福音書に記されていることのどれもが、 ですから、 「証し」に基づい そこには確かな保証があり、 ているということです。 二十四 「わた

うが今後 私たちのところにまで届けられている、 信じるところをまとめ上げたもの。 れは何のためにかといえば、 少しばかり長くなってしまいましたが、「ヨハネによる福音書」 ヨハネから始まり、 かと参考になるかと思い、 「イエス・キリスト」を伝えるためにほかなりませんでした。 その教会の人たちが時に命懸けの毎日を生き抜きながら、 信仰の思いを込めて 初めにそのことに触れさせていただきました。 私たちの目の前の そうしたもの。 「ヨハネの福音書」だということです。 の全体の枠組みを知っておいたほ それが、 時代を超えてこの ζ) ずれに 自分たちの して

真剣に受け止めて、 ていくためというのでなくて、 その教えを伝えるためというのではありません。 に聖書に向かうようにと招かれているように思われます。 緒に分かち合い そのような福音書を前にして、そこに込められているそうした祈りを 感謝をしながら精いっぱいの自分を生きていくということです。 そこに向き合っているか。 たいと願って、 イエス・キリストというお方そのものに信頼を置いて、その顧みと恵 ヨハネの福音書はこの私たちのためにまとめられたのではな そのことを 教えを守って、 私たちは問いかけられ、 道徳や倫理を生活の中で単に実践し そのことの素晴ら 私たちはどれだけ また、 いで

たちに によ れは エス 様にこう尋ねたことでした。 もしれません。 立つところ びかけです。 たのはヨハネの将来を気にかけてのことではなかったかと、 うに思わ の心の内にはいったい何があったのか、ということです。ある人はこんなふうに言っています。 るでしょうか。 スの愛しておられた弟子」 「人がどうの そして、 ロと一緒に出てくる 口 0 「当のペトロ この はいったい何が気になって、こんなことを聞いたのだろうか、ということです。 トロはおそらく、 キリストを三度も捨て去ったペトロだったが、そんなペトロも今や、 N'S て れる。 配りを始め もう その中心にある呼びかけこそが、 とそのとき、 人 3 (二十一・一~十四) で、 そして、 だから、 こうの は関係ない。 ネ 自分に はこ が振り向いたからだ」と、 そもそもなんでそのようなことがペトロに向かって言われたのかと思うと、 たのではなか そのようなヨハネです。 ではない。 リーダーとしてのその務めに回復された。 ħ ふたりの後についてきた。 イエス様と語り合いながら、ふたりで湖の岸辺を歩いていたのでは 誰かが後ろからついてくるのを感じた。 番近か からどうなるの 「主よ、 あなたは、 がそこにいたというわけです。 あなたがそうするかどうか 0 この人はどうなるのでしょうか」。二十一節です。 みんなして た仲間 ううか。 二十二節の終わりの主イエスのお言葉のように思わされ わたしに従い ですか』と、 の ふたりの会話に、 つ 二十節はそう記しています。 イエス様に朝食をふるまってもらいました。 į, 人なのだか ところが、 てきたのが そう述べています。 なさい」という \sim ヨハネです。 問題は、 自分も入れてもらい それで振り返ってみると、 口 ヨハネともなれば、 な がそう尋ねるのも の そう想像して、 だから それを見たペトロ だ」という、 前述のとおり、 その招きの言葉です。 弟子たちは今月に先 皆さんはどう思わ 早速、 主の憐 たかっ そのよう 尋ねたペトロ なお 他の弟子 が イ つまり、 イエス たの ない つもペ 工

ように思われます。 ありません。 けの言葉でしか で詳細を扱っています。ぜひ、 体の勢い エス様像をこの箇所からなおも搾り出しているものは見当たりません。 日本語の直訳では、 のギリシア語を見てみると、 れています。 に満ちた優しい のようにおっしゃっておられる。 かと思うからです。 「(それが) あなたに何の関係があるか」と その程度の表現になっていますが、元のギリシア この私はというと、こうした説明だけではやはり、 何? 語順もそのままに日本語に直訳すると、こんなふうに言っているのです。 どこか冷たく突き放すようにも響くそのような答え方を イエス様がはたしてなさるだろう 私たちの日本語の聖書 の強さと「あなた」 "Lord, this but what?" "what to you?" となります。 (κύριε, 「あなたに何の関係があるか。 とりわけ、 実際、 」です。 心遣いからだけだとしたなら、 会話が交わされていません。 ούτος δὲ このところのペトロとイエス・キリストのふたりのやり取りは、 (この点については、BFC そこには何か、 (私の当たった範囲内ではあるものの) どの注解書を見ても、 何 イエス様の返答は極めて直截にして、 どうあがいても、 あなたに? 言い方がどちらもぶっきらぼうで、 の重ねての強調、 あわせて御覧ください) τί;)」「何、 (新共同訳聖書)では「主よ、 ギリシア語の原文では、"τί πρὸς σέ; σύ μοι ἀκολούθει." もう少し違った思いがあったのではない (what to you?) 全体のトーンを和らげたり弱めたりすることはできそうに あなたに? (π΄ πρὸς σέ;)」。 あなたは、 そして「従う」ということの真剣さ・誠実さの指摘の どことなく愛想のないやり取りのように響かないで 「それがあなたに何の関係があるのか」(二十二) 「聖書読解余滴」に掲載の「優しさの奥行き(一)」 いま一つ 腑に落ちないものが残ります。 わたしに従いなさい」と、ペトロにそ 明快かつ断定的です。 あなたは この人はどうなるのでしょうか どこかぶつかり合うような感じさえ そんなふうにしか、 そこにあるのはやは 私に か。 「主よ、これ ちなみに、 従いなさい そんなふうに思わさ ۲ ي 直後の一言まで 新約聖書の元々 わゆる優しい ただそれだ 英語に は (you で

たら、 所の最大の問い 思いが隠されているのか。 深い意味での恵みがそこに置かれているとしたなら・・ 単なる心配りや優しさというものを超えたものがあるとしたら、 エス・キリストはなぜ、 私たちはイエス・キリストの物言いの厳しさを正面から受け止めることが大切になってくるよ 「恵み」というものがあるとしたなら、 かけであり、 そのことがどうやら、ペトロに対する、 何より大切なメッセージのように思わされています。 このような物言いをされたのか。そこに はたして、 どうでしょうか。 そこにもし 底の浅い表面的なものでな またこの私たちに対する この筒 どうでしょうか。 そのようなものがあるとし しかも、 イエス様のどんな もっと深

ならないように思います。 うに思います。 強く厳っ しく響いてくるイエス様のお言葉を、私たちはそのような深さで聴き取らねば そして、 それは実際、 薄っぺらでない 真実深くあるところの恵みのよう

られた文章です ここでは、 すでに隠退牧師となっておられますが、 その点につい て良 17 示唆を与えてくれる一文を以下に御紹介させてい 日本基督教団の加藤常昭先生がかつてその説教で語 ただきた 41 61

とい 言っ ヴァ ンが その れば、 尋ね ろがあっ 奇心です。 き好んで引用するの 自分の手柄を考えたとき、 の からである。 り場合は、 て のに、 です。 ています。 ンは、 人の たのだろう そ Ó 牧師も比べる。 そんなことを書い そう読んだとい れは、 は、 この たに違いない。 ためを思っ それに これをどう理解 ただ単純に面白がっ カルヴァ カルヴ その人にも思い なぜあ われ か 自分よりもしあわせな者が L ても、 P て わ は の ン の好奇心ではなくて、 n 1) ン • や、 うの たの の言葉を、 伝道者として身に覚えがある。 は、そのような趣旨のことを言って 人であって、 の この箇所につ すぐにそうい 中にもある好奇 ここでなぜ、 • 牧師こそ比べるかもしれません。 は、 当たるところが たかというと、 改革者力 てのぞき込むような好奇心と違っ カルヴァ 福音書の記事そのもの さまざまな立場の 自分ではない ルヴァ い ペト うことになるかもしれない。 て説教する人や講解の文章を書く ン自身の中に、 N, 結局は、 いたり、 ある ペト ンの注解の 口 他 は 人の からに違いありませ この 口 の の 自分よりも力の 說教者、 中に 自分自身にこだわり続けて 運命に対する好奇 かという問いから自由にならな すぐに比べる。 には 中にある言葉であります。 人はどうなるの この好奇心の罪を覚えるとこ ある好奇 います。 主イエスの弟子としての、 講解を書く • て、 理由は何も書い N) 絶えず、 ある者が ٨٥ 自分と比べ の ż 自分と他人を比 で なせるわざだと なぜ 人が ・純粋無垢に、 かも、 引用 他 力 ļ 人と比 いる思 た ての ル ヴァ する て す 好

れませ ん。 少な くともペ だが、 主イ 口 は、 ・エスは、 ے ک で、 ここでそんなことを少 ŧ 0 と親 切な 主イ 工 しも言わ ス の 答えを期待 n な た L

たに関 係のないことである。 あなたに何 の 関係があるか」。 明らかに、 まだペ これ は実に厳しい言葉であ 口 の Ü の中に残っていた罪の ります。 り根っこを は

そ 断ち切るみ言葉です。 わたしに くことはできない。 の意味では、 ついて来なさいと言われました。 別の言葉で言うならば、 ほか ここで完全に罪の根っこが取り去られ、 の 人のことなんか考えなくなるのであります。 ・罪の根っこが残っ まさに、 ていたまま、 他人に対する好奇心 ペトロ ペトロは主イ • の主に対する愛が から解き放たれます。 • ただあなたは、 エス に 従 i 全

る。 たところに赴いたところで出会う人びとである。 ・これは厳しいけれども、 ただ関心を注ぐべきは主イエスに対してであり、 まことにありがたいみ言葉であります。 その人びとに仕え抜く そして、 主イエ ス の

ん 由にされる。 になってしまうからです。 仕えるにしても、 き放たれて、 景の説明は別の機会に譲るとして) それに起因する人々の評価をめぐって、 から解放してもらえるとしたら、それは本当に恵まれた人間と言えるように思います。 なんと幸いなことでしょうか。好奇心、比較、 の実存的理解たる加藤先生の解釈がもし適切なものだとしたら、 いくのではないでしょうか。 長い御紹介になりましたが、 ロを思うイエ 真っすぐに響いてきます。 ح 隣人と共に生きるということも、 一ス様の 筋の思いで主に従うことができたとしたら・・・。 加藤先生はそう言っておられますが、 「比べる」という貧しい好奇心に囚われているかぎり、 恵みの深さがあるように思います。 ي الم キリストに一途に目を注ぎ、 立めの一撃、 厳しさは必ずしも優しさと対立するものでなく、 もう多くの言葉は不要のように思われます。 たしかに、 もしもカルヴァンの理解が的を得たものだとしたら、 恵みの一撃」。 微妙な比較の情況があったようです。 そのようにして初めて、 手柄, ペトロとヨハネの間には、 競争、 厳しいお言葉は、 「厳しい。 本当にそのとおりだと思わされています。 そこでそうした囚われから解き放たれて、 嫉妬・・・の どうにもしぶとい そこから解き放たれる私たちは実際 けれども、 友に寄り添うにしても 私にはそう思われてなりませ わずかなりとも可能にされて それはどうにも卑しいも それぞれの生涯の終え方と カルヴァンの理解は、 しばしばそこにこそ真 しかし、 まことにありがた それらから解 (そうした背 そして 隣り 囚われ 人に そ 0

とか、 なの は 実際問題、 に、 そんなふうに の私がどうして」とか 私たちもまた、 そのように呟いてしまう。 人と自分を比べて 口を滑らすことがよくあるのではないでしょうか。 「あ 「なんで、 の人たちがこうこうだか 自分自身の中にも見られる、 ے の自分だけが」「だか 5 そんな習性です。 だから 「あ 私は の 人が 以前、 あ んな

う。 また、 ては、 ば キリ まえたうえで、 して、 と立派な方なのだろうと思いました。 たのでした。 キリストに従うということでは ので ておられると言っておられました。でも、バプテスマを受けて、 者の全員が参加して、 しておられる方々が信仰に入るのをためらわれるとしたら、 の先生とおっしゃっておられました。 のような光景を目にしたことがあります。 取りでした。 か す n V そう言わ パネルディスカッ その点についてはもうよくは想い出せません。ただ、 の関連で次のように言われたのを、 は ス おっしゃるとおり、 決して珍しくない言葉ですし、 その人たちと同じようにしなけりゃならない は n な なぜならば、 僕はいまだにバプテスマを受けないでいるんですよ」。 が そし エス に信 「あの人やこの人を見たら、自分のほうが 要するに「キリストに従うことを始める」 猛烈に反省しなければならないと思います。 「だっ 間違っ は で の て、 頼し もう十年以上も前の、 h れてしまっ しかしその一方でまた、 人 キリ ょ て、 う もしも教会の て 筋が違うの て それ 質問や議論が交わされたわけです。どういう流れの中でそのことが言われ ションという意見の交換がなされました。 か。 スト の人に足りない 教会の 1, おら ると思わ は信じることを始めることをめぐっての、 教会のクリスチャ たら、 そうでは ħ ^ の る むしろ、 人たちを見たら、 に信仰と では の あれこ いなら、 この私だっ れたなら、 聞けば、 耳にすることも少なくない批判と言えるのではないでしょうか。 発題の方が数人おられて、 キリスト教関係のシンポジウムでのことです。 ない な 今でも覚えています。 こちらのほうがより基本的で いう 1, ところがあるというの 私はその先生に次のように申し上げたい思いにさせられ ペトロとは多少 れが ので でし あ ンがい 教会にはもう長い間いらしていて、 の の て、 は、 おか ょうか。 信仰 はな 人が 僕のほうが わゆる という問題だったからです。 先生にはか その基本の基本とい の言葉で語り合っ 1, どうだこうだと けれども、 か。 いと思わ 出席者のお一人だったその大学の先生が > 躓 きの元になっっまず 御自分がイ のか」ということらしい。 情況が違いますが、 よっ 教会員の私たちは当然、 先生がイエ その先生はこんなふうにおっ そして、 よっぽどマシだと思うも これに続いて、その方たちの間でま 信仰生活を始めることはなさらない ぽどできている。 なわ は、 れたなら、 一方で つまり「入信」をめぐって おっしゃられるとおり、 より本質的と言えるか ない たしかにそうなので 工 それを受けて、 一ス様に ほ ス て対話をし そのことをきちんとわき て、 にちが か う あ の 丰 の けれども、 それが原因で それは、 礼拝にも続けて出 の 人 IJ は つ その方は、 あれこれ言 を引き合 p ス なのに 言い方によっ は 7 今度は出席 正すべ n, λ の だか か エス どう きっ ħ 1, 求道 5 n て

改めて う信仰 す。 その は正 ていただける。 ないように思います。 う「聖書の信仰」 うことは それ 目に 人との そんなふうに申し上げたい気がしているのですが、 はい て 真っ ゅ 人と比べてばかりでは、 の 関 け つまで経っても、 すなわち、 すぐ見入るならば、 でなく、 係もそ ばよ 真理があるように思わされています。 もまた、 $\langle \cdot \rangle$ で それでは、 の のではない 自分らしい自分にしていただけるように思います。 ほか キリス ただキリストを」という よく聞くあのキャッチフレ ようにして、 なかなか分かるようにはならないのではないでしょうか。 の 初めの ハトによっ 人たちを横目 人のしがらみから自由にされて イエス・キリストに信頼するとい で いつまで経っても 人に縛られてしまって、 そのようにできるはずで 本来のあるべきそ ょうか。 一歩からして始まらない て自分が様々な縛り で見て 1 私たちはそうするとき初めて、 工 () ス る 皆様はどうお思いになられるでしょうか ・キリ ばか れに変えられて h は スト か ように思わ では、 ら自由にされ な に真っ V か。 ・エス様に キリ 本当に自由にはなれ 1, れるのです」。 ゙ズには、 本当に自由にし 向き合 ることで はずだか ストに従うと その意味では、 従う で

長生きをしたと伝えられています。 不目由極まりないそのところから自分たちを解き放ってくれた感謝な言葉だったにちがいありません。 ヨハネ自身もどこかで、ペトロに対する劣等感を感じていたかもしれない。そのようにも想像されて られています。どういうことかといえば、 えば、 一説では、 一章のこの最後の箇所が加えられたとき、 光栄ある くおられ れぞれに託さ ですから、 言っ そうした風潮に、 $\stackrel{\neg}{\sim}$ 紀元の六十年代のことで、 福音書の編纂に着手したヨハネ自身が実は、 口 の死後 た弟子 ただけでなく、 「名誉の死」と言えます。 4 口 れば は光栄ある殉教の死を遂げたのに、 しばらく経ったときに、 ħ トロ 3 た道を歩めば 『より安楽な道』 ハネの進む道とは違って ヨハネの教会は悩まされたというのです。 にはペトロの進む道というの ヨハネとその教会にとっても、 ですから、 あの悪名高い皇帝ネロ 1, いつも一緒に出てくるペトロのほうはローマで殉教の死を ところが、 () のだし 改めて最後に書き添えたというわけです。 に進んだ」という、 ペトロ \exists ハネもヨハネの教会もすでに と これに対して、 1の殉教の後、 いる。 そのように語ってく 同じようなしがらみの中にあったとも考え の迫害によってでした。 それに比べ 人のことを気にして人と比べるという それら があるのだ。 諸教会の間で次の ふたりの間 そして、 ヨハネのほうは殉教しな は関係のない て れたそのイエ それは、 その感謝の中に入れ もしかすると、 0 3 71 「優劣」 ネの それはある意 それ を比 ほう スの で

られてい たちの前にあるかけがえのない福音書 ヨハネがペトロと違う道を備えられたおかげで、 かれる道に真っすぐ、 そのように私たちを励ましてくれているわけです。 て、 人との比較に縛られてはならない。 ただキリストの方にだけ それぞれにふさわしく歩みを進めればいいのだと、 「ヨハネによる福音書」 その目が向けられていたのではないでしょうか。 それぞれがイエス・キリストにこそ目を注ぎ、 すなわち殉教して早くに死ななかったおかげで、 がまとめられ、 そのように私たちに教え、 残されたとも言えます。 実のところ、

ちこの私たちに伝えたいのは、「イエス・キリストの真実」がいかに豊かで、どれほど恵みに満ちて 私たちは、 音書を書き表わしたのではないでしょうか。 考えられます。 じような思いでもって、 を書くならば、 の私たちのもとに届けられました。そして、 人たちにあまりにも失礼ではないでしょうか。 のだろうと思います。 小さな貝殻を いるかということです。「そのことを身をもって知ったこの私たちは、 スのなさったことは、 「ヨハネによる福音書」はこのようにして書き留められ、 てもらいたい。 そのアウグスティヌスがこんなふうに語っています。 文字どおり命を懸けてイエス・キリストに従い、 かり受け留め、 「わたしは」との言葉が出てきますが、 福音書の裏に隠され、その中に込められているそのような思いと願いと そして祈りとを ているせっかくのうれしいいのちも味わうことができないように思います。 入れ物にして いずれにしても、 世界もその書かれた書物を収めきれないであろう」。 それが、 神様の真理や真実はとても汲み切れるものではない、というのです。 そのことを、 心に深く刻んで、その言葉の一つひとつに向かいたいと思います。 ヨハネとその教会はイエス・キリストの恵みをようやくこれだけ書き留めた このほかにも、 今 この私たちの前にある「ヨハネによる福音書」だということです。 大きな海の水を汲み出すのにひとしい」。 福音書をまとめたヨハネとその教会がここで言いたいのは、 あなた方にも伝えたい まだたくさんある。 古代の神学者にアウグスティヌスという有名な人が 最後の最後にこう述べています。二十五節です。 しかも、 これはおそらくは、 そのようなところから その言葉を書き留めてく まとめられ、 「神の真理に のだ」とそう願って、 わたしは思う。 編集の最終段階での代表者と そして書き加えられ つ あなた方にもそれを V は、 人間という 「わたしは思う」 て書き表わ れた初めの教会の その一 ヨハネの福 これと同 すなわ は、 っ

の福音書におけるイエス・キリストの最後のお言葉です。 があなたに 何の関係があるか。 あなたは、 わたしに従いなさい」。 「ほかの誰かが、 ではない。 あなたが \exists

えして、 書の続きをこの私たちが書き加えていくのだろうと思わされています。 て、 れた私たちの一人ひとりがイエス様のこの呼びかけにお応えしなけ いでしょうか。 \exists ハネの福音書の全体が締め括られています。 そこからまた なのだ。 私たちはそのことを呼びかけられているのではない 新たな出発を始めたいと願っています。 あなたは、 この私につ それは言い換えれば、 いてきなさい そのようにして、 でしょうか。 ればならない、 イエス様のこの御言葉をもつ すなわち、 それにきちんとお応 ということではな ヨハネによる福音 この御言葉に触

うな手紙の 者に読んで聞かせるわけです。 以下に御紹介するのは 清水先生は日本基督教団の三鷹教会を最後の牧会場所として、 わ 聖書の中の言葉の てた「教会への手紙」 れは清水恵三という牧師で、 ほど重い言葉を持っ の礼拝を続けておられたようです。 いうことについて、 「病床説教」というかたちで通常の説教をまとめられ、 の 清水先生は教会のみんなに宛てて、その日、次のように述べておられます。 言葉を語 このごろ、 皆がどれだけ心を集中し は 礼拝の説教は別の方にお願いすることにし、 おれ 毎週、 白血病が、 「第三十七信」 とが て聴き取ることができてい ませ らなくても その祝祷を聞い できて 時々、言葉の重さということについて考えさせられます。 一人の牧師の言葉を記し、 _ (聖書を読み進めるときの生命線ともなりますので) というものを記されるようになります。それを説教の後で、 っ て 「教会への手紙」 その病でした。 いるか、 で、 v ひとつが重みをもっ 礼拝に参加するとい よい。 る 引用の言葉は、 か。 それには、 一九八六年十一月九日の礼拝宛てとなっています。 て、 けれども、 そ 伝道者の生涯はそこに 全く自信がありません。 礼拝が閉じられたのでした。 んな重さを持っ 私は先生の御本から多くのことを学ばせていただきましたが 心を震わせるかにか と題された、 それこそ教会員の願いを受けて、 る 先生が病の床から教会の礼拝に宛てられたものです。 病状が悪化するにつれ、 今月の学びを閉じさせていただきたいと思います。 か。 て響いてきます。 うことは また、 しかし教会員の要望もあって、 今申し上げたような文章です。 それを担当の方に読んでもらうことで た言葉を一言でも語っ そこ きっ か かか 五十四歳の若さで天に召されました。 こんなことを思うと、 か で聴 Ę, 終わりに御紹介するのは、 っ つ て その重さをどれだけ て Ü それもママならなくなります。 V 1, たことをどれ 終わりに の ると思います。 るように思い 最後の祝祷も加えられ ような言葉を中 「おはようござい 抜粋して記します て生きたい 一人の方が出席 毎週の礼拝に宛 入院して当初は 自分がどれ だけ ます。 改め そのよ 自分 人々 7

手紙から三カ月半ほどして、 者も相次いだと言われています。 して、 を教えられた教会の方たちは、 方々 徹するものとしてひびくことでなければなりません」。 聖書の御言葉にそのように向かうこと れた先生でした。 ています。 鈍くて愚かな私どもの耳に、 てくるにちが の や問題を抱えておられる方々に、 それを聴き、そして 牧師が病床にありながら、 それは、 父なる神の愛、 清水先生生は別のところで、 「聖書のコトバがわたしのナマミのカラダをつらぬき、 ありません。 私たちの 静かに神様の御許に召されてゆかれました。 先生の手紙が読まれて 祝祷が祈られるとき、 『アーメン』と声を合わせた」と、そのように報告されています。 聖霊の交わり、 こうして、 願いや意図を超えて、私たちの汚れた言葉を貫いて聴こえ 上からの圧倒的な響きが注がれますようにと その力を信じて、 礼拝の出席者は減るどころか むしろ増え、 恩師の石島(三郎)先生の言葉を引用して、 お守りを祈ります。 清水先生は翌一九八七年の二月二十五日、 我ら一同と共に すべてを御手に委ねましょう。 願わくは、 限りなくあらんことを。 「その居住まい 主イエス・キリス 洗礼や転入会の希望 わたしの心魂に Ü こうも言わ か 病気 5

せん。 に導き、 信仰とはどこまでいっても「聖書」 も どんなに体を忙しく動かしていても、 り動かされる。 していきたいと、 私は、 その幸いを共に分かち合いたいと願って、「ヨハネによる福音書」をまとめたにちがい その祈りを私たちは感謝をもって受け止め、 このような清水先生の生き様に教えられています。聖書の言葉に心を震わせ、そこで魂を揺 そのように教えられています。 信仰の出発点に立たせるものであって、 そのようにして居住まいを正し、そこに向かう。 心からそう願っています。 のそれであるということが置き去りにされていってしまうのでは ヨハネとその教会の信仰者たちもそのことを知ってい 教会が教会であることは薄れていってしまうのではない それがないところでは、どんなに人が集まっていて その祈りに応えるような読み方と向かい方とを それこそがこの私たちを信仰の原点・ いたから か。

新り

恵みと憐れみに富みたまう、私たちの主なる神様。

私たちの思いを整えてください。福音書をまとめ上げたヨハネの教会の心を理解し、 私たちをそこへと導いてくださって、 そこに満ちる豊かな鉱脈を掘り当てることができるよう、 「ヨハネによる福音書」という 心から感謝いたします。 あなたの御子を証しする書をお備えくださり、 私たちはそこに足を踏み入れました。 御子イエス・キリストに向き合う それをきちんと

受け止めて読み進めることができますように。そして、あなたの豊かな恵みの中へと、この私たちを

もまた導き入れてください。

あなたの御言葉を通して、どうかこの時も、 私たち一人ひとりの行く手を支え導いてくださいます。

ように。教会の行く手を導き拓いてください。

愛する主、イエス・キリストの御名によって願い、お祈りいたします。

イメン